

岐阜県教育委員会 様

関高等学校長

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 関高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年1月31日(火)
- 3 開催場所 関高等学校
- 4 参加者

会 長	大野 正博	朝日大学法学部 教授
副 会 長	福田 恵介	福田刃物工業株式会社 取締役
委 員	森 小百合	関市 健康福祉部長
	村井 義史	本校同窓会 副会長
	河野 芳宣	本校 P T A 会長
学 校 側	林 雅浩	校長
	高田 幸世	教頭
	小島 和秀	教頭
	大野 仁史	事務部長
	川原 正史	教務主任
	杉山 広之	生徒指導部長
	片桐 良子	進路指導部長
	林 直樹	研究推進部長
	安中 裕勝	特別活動部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和4年度自校評価における各分掌の成果と課題について

○コロナ禍における学校の活動について

意見1: コロナ禍により、学校行事への親の参加が難しい中、運営協議会委員として文化祭を見る機会があった。生徒の生き生きした活動風景や学校の良い雰囲気を感じることができた。他の保護者の方にも見てもらいたかった。

意見2: P T A 活動を進めていく中で研修会をオンラインで配信した。良い内容の研修会であったので多くの保護者が視聴できて良かった。

意見3: コロナ禍での学校運営に様々な工夫をして取り組んでいただいていることがわかった。特に文化祭では、様々な制約の中で十分な時間をかけて素晴らしい発表ばかりであった。

○関高校への要望

意見1: 近隣地域の方々に関高校の魅力を如何に伝えていくかの工夫が必要である。

意見2: 生徒に対して「こうあって欲しい」と集中的に指導してはどうか。特に、失敗しても立ち直れるような、困難を乗り越えていく精神を身に付ける指導が大切ではないか。

意見 3：探究活動がうまくいっていない学校が多い中で、関高校の探究活動はうまく回っている。この探究活動を大学受験や大学での学びに生かしてほしい。

意見 4：ゼロから 1 を創り上げることは、1 を 2 にするよりずっと難しいが、それをやり遂げる人材が望ましい。大きな事でも小さな事でも自主的にやっていることを褒めてほしい。

○その他

意見 1：関高校は、昨年度 100 周年記念事業を終えたが、その後学校がどのように変わったのか。

→未来のリーダー育成のために様々な活動を行っている。

- ・自転車運転時のヘルメット着用や夏季登校時における服装の軽装化など、生徒が自ら考えて行動できる機会や地域との連携をベースに様々な探究活動を行っている。
- ・コロナの影響で海外研修や屋久島研修は実施していないが、オンラインでの海外研修としてフィリピンとの交流会を行っている。

意見 2：小中高ともに不登校の子どもが多くいると聞いている。特に発達障がいなどを原因とした不登校の子どもに対して高等学校はどのような対応をしているのか。

→発達障がいなどの課題に対応するために、岐阜県の公立高等学校では、巡回通級が来年度より本格的にスタートする。

意見 3：保護者として、進路達成に向けて一心に努力している姿を目にする。良い環境、雰囲気の中で頑張っていると思う。

意見 4：文化祭を見学してどの発表も大変すばらしいものであった。特に、演劇を鑑賞し、生徒が主体的に活動していることがよくわかった。文化祭が伝統ある行事であることが理解できた。

意見 5：高校説明会やオープンキャンパスなどで、生徒が中学生に向けて発表する機会を持つべきである。

→関高校の高校説明会では生徒が生徒会活動や探究活動について説明する場を設けている。

意見 6：薬物乱用、オーバードーズ、携帯依存、ゲーム依存が増えている。また、中学校での非行も増えてきているのが現状である。今後、このような子どもが高校に入学してくるという意識も必要である。

6 会議のまとめ

12 月から 1 月にかけて実施した本校の各分掌の反省会をもとに作成した「令和 4 年度自校評価」を資料として、各分掌（教務、生徒指導、進路指導、特別活動、研究推進）から今年度の取組、反省、自己評価や来年度への課題などについて説明した。その後、学校運営協議会の委員の方々からご意見やご質問をいただいた。当校の教育については、概ね好意的な評価をいただくとともに、関高校の今後に向けた貴重なご意見をいただいた。

協議会の内容はホームページに掲載し、保護者や一般の方にも周知して理解を求めていきたい。また、職員会議等で全職員に報告し、今後の教育に生かしていきたい。